

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営 | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|-------------------------------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|--|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 設置・運営 | 運営 | 運営 | 運営 | 運営 | 運営 | 100.0% | 85,888 | 順調 | <p>平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>「しまくとぅば普及センター」により、講師養成講座、講師派遣、しまくとぅば検定を実施し、しまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。</p> |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2) これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <p>・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。</p> | | | | | | <p>・しまくとぅば講師養成講座については、本島北部における中級講座（2期生）に加え、八重山において初級講座（3期生）を開催した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、県内の学校、しまくとぅば普及団体と連携し、しまくとぅばの授業やしまくとぅばに慣れ親しむための取組みなどを行い、地域に応じた取組みを行うことができた。</p> <p>・しまくとぅば検定については、中南部言葉編として5級から9級を実施したほか、国頭言葉編、八重山言葉編、与那国言葉編のそれぞれ9級を新たに実施した。</p> | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・内閣府による沖縄振興計画の総点検結果である「沖縄振興の現状と課題」においては、「主な取組の評価(⑥文化関連)」のなかで、「しまくとぅばの保存・普及・継承に向けたソフト交付金によるしまくとぅば普及センターの設置・運営等の取組が進められているものの、しまくとぅばをあいさつ程度以上、話す人の割合に改善が見られないことから、これらの取組については改善・見直しの検討が必要であると考えられる。」との指摘がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。

・「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を挨拶程度以上、話す人の割合について、令和3年度調査結果では過去最低値となった。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・しまくとぅば普及センターの設置・運営については、しまくとぅば講師養成講座開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組みに重点化し、それを総括する窓口機能に注力するなどの取組みの見直しを行い、県民がしまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋げ、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

4 取組の改善案 (Action)

・令和3年度に行ったしまくとぅばに関する県民意識調査により、県民がどのような機会にしまくとぅばに触れているのかや、市町村、小・中学校、民間団体等がしまくとぅばについてどのような取組みを行っているのか等を把握し、しまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋がる取組みを令和4年度に検討する新たなしまくとぅば普及推進計画に盛り込み、実施することにより、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | しまくとぅば普及の核となる人材の養成講座を各地域で実施 | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|----------------------------------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|---|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 24地域 | 19地域 | 22地域 | 9地域 | 2地域 | 20地域 | 10.0% | 85,888 | 大幅遅れ | 「しまくとぅば普及センター」において、沖縄本島北部地域、八重山地域で講師養成講座を開催したほか、学校等への講師派遣出前講座を6件開催した。 |
| 活動指標名 | 各地域の学校、幼稚園、保育所、民間企業等に対して、出前講座を実施 | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | - | - | 16件 | 10件 | 6件 | 10件 | 60.0% | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 |
| | | | | | R3年度 | | | | | 活動指標としている人材養成講座の実施地域、出前講座の実施件数ともに目標値を達成していないことから、大幅遅れとして判定する。 |
| 活動指標名 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| 実績値 | | | | | | | | | | |
| (2) これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| ・ 公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。 | | | | | | ・ しまくとぅば講師養成講座については、本島北部における中級講座（2期生）に加え、八重山において初級講座（3期生）を開催した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、県内の学校、しまくとぅば普及団体と連携し、しまくとぅばの授業やしまくとぅばに慣れ親しむための取組みなどを行い、地域に応じた取組みを行うことができた。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・内閣府による沖縄振興計画の総点検結果である「沖縄振興の現状と課題」においては、「主な取組の評価(⑥文化関連)」のなかで、「しまくとぅばの保存・普及・継承に向けたソフト交付金によるしまくとぅば普及センターの設置・運営等の取組が進められているものの、しまくとぅばをあいさつ程度以上、話す人の割合に改善が見られないことから、これらの取組については改善・見直しの検討が必要であると考えられる。」との指摘がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。

・「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を話せる人の割合について、令和2年度調査結果では過去最低値となった。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・しまくとぅば普及センターによる取組については、しまくとぅば講師養成講座開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組に重点化し、それを総括する窓口機能に注力するなどの取組の見直しを行い、県民がしまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋げ、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

4 取組の改善案 (Action)

・令和3年度に行ったしまくとぅばに関する県民意識調査により、県民がどのような機会にしまくとぅばに触れているのかや、市町村、小・中学校、民間団体等がしまくとぅばについてどのような取組を行っているのか等を把握し、しまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋がる取組を令和4年度に検討する新たなしまくとぅば普及推進計画に盛り込み、実施することにより、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 補助事業件数 | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|--------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|--|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 12件 | 11件 | 12件 | 7件 | 8件 | 10件 | 80.0% | 85,888 | 概ね順調 | しまくとぅば普及継承の取組に対する補助事業の公募を行ったところ、8件の応募があった。審査の結果、そのすべてが採択され、しまくとぅばの講座や公演、継承動画の制作等の事業が展開された。 |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 |
| | | | | | | | | | | 採択された8件の事業は、講座、公演、継承動画の作成など多岐にわたり、幅広い年齢層が楽しめる内容で実施された。多くの県民がしまくとぅばに親しむことができ、普及継承に大きく寄与した。 |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 各団体の事業について、どのような年代層をターゲットとしているかを補助申請時に確認し、若い世代に向けた事業について積極的に採択する。 補助事業者に対して、事務処理に関する手引きや感染症拡大防止対策・ガイドライン等を周知し、計画に沿った事業実施及び予算執行等を行うよう支援する。 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 申請書によりその事業のターゲットを確認の上、審査を実施し、若年層を参加対象とした島唄コンテストをはじめとした多彩な事業が採択された。 新型コロナウイルス感染症防止のため、各団体に独自の感染拡大防止ガイドラインを作成した上で事業実施を行うよう指導した。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・普及団体がこれまで補助事業に関わったことのない団体等が多く、事務作業そのものについても不慣れな団体がほとんどであることから、補助事業の制度そのものの理解が難しく、事業の執行に多大な支援を要する。

○外部環境の変化

・県内団体で応募する団体や地域に偏りがある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各団体が補助事業の制度を十分理解し、円滑に執行できるようサポートする必要がある。
- ・より広く呼びかけ、事業の認知度向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・補助事業者に対して、事務処理に関する手引き等を周知し、計画に沿った事業実施及び予算執行等を行えるよう支援する。
- ・HPでの公募のみならず、各市町村等にも周知し、認知度の向上を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | |
|----------|---|---------------------|---------|--------------|
| 施策展開 | 1-(4)-ア | 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり | 施策 | ② 伝統行事の伝承・復元 |
| | | | 施策の小項目名 | — |
| 主な取組 | 地域の文化継承・発信支援事業 | | | |
| 対応する主な課題 | ②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。 | | | |

1 取組の概要 (Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|--|--|-------------------------------|-----|----|-----------------|----|
| 普段、祭事等でしか披露されていない地域の伝統芸能等を国立劇場おきなわに集め、舞台公演として県民へ披露する「特選 沖縄の伝統芸能」を開催するとともに、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演（シンポジウム等）を開催する。 | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 |
| | | 3回以上シンポジウム開催 | | | | |
| 実施主体 | | 県、文化協会 | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | | 文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】 | | | 各地域でのシンポジウム等の開催 | |
| 1回以上公演回数 | | | | | | → |
| 地域での公演回数 | | 地域の伝統芸能を集めた公演 | | | | |

2 取組の状況 (Do)

| (1) 取組の進捗状況 | | | | | | | (単位：千円) | | | |
|------------------------|------|----------|----------|---------|---------|-----------|---------|------|---|--|
| 予算事業名 地域の文化継承・発信支援事業 | | | | | | | R4年度 | | 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 | |
| 主な財源 | 実施方法 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算額 | R3年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR3年度： - | |
| 県単等 | 委託 | - | 9,311 | 9,631 | 10,900 | - | - | | OR4年度： - | |
| 予算事業名 地域伝統文化の継承・発信支援事業 | | | | | | | R4年度 | | 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 | |
| 主な財源 | 実施方法 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算額 | R3年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR3年度： シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回 地域伝統芸能保存会への聞き取り調査（8地域程度）を行った。 | |
| 県単等 | 委託 | - | - | - | - | 7,414 | 6,725 | 県単等 | OR4年度： シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回を予定している。 | |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 各地域でのシンポジウム等の開催 | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|-----------------|-------|------|------|--------|---|-------------|---------------------|------|--|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | 4 | 2 | 1 | 3 | 3 | 100.0% | 7,414 | 順調 | <p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとうば等の普及・継承についての座談会を3回開催した。また地域の祭等で披露される伝統芸能5団体を集め国立劇場おきなわで「第8回特選 沖縄の伝統芸能」として上演した。その他県内8地域の伝統芸能保存会等の活動状況を調査しまとめた。</p> |
| 活動指標名 | 地域の伝統芸能を集めた公演 | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | 1回 | 1回 | 0回 | 1 | 1 | 100.0% | | | <p>県内3地域（国頭村安波、那覇市首里、糸満市糸満）で地域の伝統行事や伝統芸能を取り上げ、文化の継承をテーマに座談会を行った。「第8回特撰 沖縄の伝統芸能」では宜野座村字宜野座、金武町中川区、読谷村伊良皆、首里末吉町、宮古島市の伝統芸能を、国立劇場おきなわで公演し、継承活動を促進させ、コロナで活動できなかった団体の発表の場を提供した。活動状況の調査では8地域の現状をまとめた。</p> |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2) これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。 地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でシンポジウムを座談会に変えて行い、Web発信することで遠方からもアクセスがあるなど、これまでとは違った方面にアピールすることができた。「特選 沖縄の伝統芸能」では短時間にお客様が殺到することから、物販を中止し、席もすべて指定席にするなど工夫した。調査事業でも各地域でそれぞれ課題が出てきた。 地域の伝統芸能等に関する講演会については、コロナ禍により開催できていない。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。

・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

・コロナ禍により、各種のイベント中止が相次いでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。

・地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 普及推進計画に基づく人材養成(単位:人) | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|----------------------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|--|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 22 | 24 | 23 | 69 | 69 | 5 | 100.0% | 14,017 | 順調 | R3年度は、次年度以降の担い手育成(フォローアップ)に向けた「琉球料理传承人教本」を全传承人69名分制作した。また、沖縄の伝統的な食文化に関する県民意識調査の結果及び有識者による検討委員会の意見を踏まえて、「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画 第2期計画」を策定した。 |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | - | - | - | | | - | | | | |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | | | | | | | | | | |
| (2) これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす。 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する。 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 学校給食に関連する関係部局との調整を行い、第2期計画における令和4年度からの施策として、学校現場と連携した学校給食における献立メニュー化に向けた定期的な情報発信について策定した。 第2期計画における施策として、令和4年度事業において、琉球料理を提供する店舗の認証制度の制度設計に向けた検討を行う旨策定した。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 伝承人の間でも普及啓発活動の内容や活動の頻度に差があり、組織的な活動が実施できていない一方で、令和元年度に(一社)琉球料理保存協会が発足し、伝承人が数多く在籍している。
- ・ 伝承人を活用した情報発信において、学校給食等の関係団体や観光関連団体等と連携した取組を実施できていない。

○外部環境の変化

- ・ 県民意識調査においても、琉球料理を作ることができると答えた10代~20代は3割程度にとどまり、若い世代を中心とした伝統料理離れが進みつつある。一方で次世代へ琉球料理を継承していきたいと答えた割合はいずれの世代でも8割以上となっている。
- ・ コロナ禍により県外からの観光客が減少し、普及啓発を行う場が限定されている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 沖縄の伝統的な食文化を次世代へと継承させていくため、栄養士等の学校給食関係者と連携し、若い世代へ向けた施策を実施するとともに、観光資源として活用するため、観光関連団体等と連携し、観光客に向けてわかりやすい情報発信を行う必要がある。
- ・ 伝承人が組織的に活動を行い、自主的な普及啓発活動を促進するため、琉球料理保存協会と連携し、伝承人の育成及びスキルアップのためのフォローアップ講座を実施する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 伝承人を活用した給食向け献立メニューの作成や、学校現場等に向けた普及啓発ツールを作成し、学校給食等関係社向け定期の情報発信を行う。
- ・ 「琉球料理が味わえる店」(仮)店舗認証制度に係る制度設計に取り組む。
- ・ 伝承人を活用した出前講座等モデル事業を実施するとともに、伝承人の育成・フォローアップに向けた支援を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | |
|----------|--|---------------------|---------|----------------------------------|
| 施策展開 | 1-(4)-ア | 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり | 施策 | ③ 文化財の適切な保存 |
| | | | 施策の小項目名 | ○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還 |
| 主な取組 | 琉球王国文化遺産集積・再興事業 | | | |
| 対応する主な課題 | ③「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。 | | | |

1 取組の概要 (Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|---|----------------|-------------------|-----|-----|----------------|----|
| 取組内容 | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 |
| 戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して県内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。 | | 復元品の製作(累計) | | 58件 | | |
| 実施主体 | 県 | 王国文化遺産の再興による復元品製作 | | | 復元した王国文化遺産の発信・ | |
| 担当部課【連絡先】 | 文化観光スポーツ部文化振興課 | 【098-866-2768】 | | | | |

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

| 予算事業名 琉球王国文化遺産集積・再興事業 | | | | | | | R4年度 | | 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 | |
|-----------------------|------|----------|----------|---------|---------|-----------|--------|------------|---|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算額 | R3年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR3年度： 復元した製作品を通して模造復元の技術や琉球王国の文化を紹介する展覧会を県内外で3回開催した。 | |
| 一括交付金(ソフト) | 委託 | 182,088 | 102,845 | 91,482 | 65,590 | 64,987 | 16,144 | 一括交付金(ソフト) | OR4年度： 琉球王国時代の文化遺産の資料調査や監修委員会を8回開催し、年間を通じて県内外の文化財調査を行い模造復元するための設計を行う。 | |

| 予算事業名 | | | | | | | R4年度 | | 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 | |
|-------|------|----------|----------|---------|---------|-----------|-------|------|---------------------|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算額 | R3年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR3年度： | |
| | | | | | | | | | OR4年度： | |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 模造復元品の製作(累計) | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|--------------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|---|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 18件 | 36件 | 60件 | 65件 | 65件 | 58件 | 100.0% | 64,987 | 順調 | <p>戦災等によって失われた琉球王国の有形無形の文化財の模造復元に取り組んだ。模造復元した資料を活用し、琉球王国の手わざや文化を紹介する展覧会を3回(東京・福岡・久米島)で開催した。また製作者や監修委員による報告会等の開催や事業報告書を刊行した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>平成27年度に作成した実施設計書を基に、平成28年度から琉球王国を代表する8分野(絵画・木彫・漆芸・石彫・染織・陶芸・金工・三線)の模造復元を開始し65件の復元資料が完成するとともに、復元した手わざ(技術)を紹介する展覧会(3回)や報告会等の開催(6回)、事業報告書の発刊(6巻)を行った。</p> |
| 活動指標名 | 展覧会の開催による発信 | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | 1回 | 4回 | 3回 | 3回 | 100.0% | | | |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <p>・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用の促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展覧会等をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内外で開催する。</p> | | | | | | <p>・本事業の周知並びに王国文化の理解を深めるために模造復元した資料を活用した展覧会「手わざ」展を東京国立博物館・九州国立博物館・久米島博物館で開催した。また製作工程で得られた知見を発表する報告会やシンポジウムなどを実施した。</p> <p>・製作工程や模造復元の拡大写真等を当館の公式サイトで発信し、多くの人が閲覧できるようにした。</p> <p>・本事業で復元した手わざや復元資料について調査研究等も含め8分野の報告書を刊行した。</p> | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・復元資料を展示する「手わざ」展では、模造復元資料を通して琉球王国の文化や復元した手わざ(技術)及びその製作工程を幅広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。

○外部環境の変化

・復帰50年という節目を迎えるにあたり琉球、沖縄独自の歴史や文化への注目が集まり、さらに首里城火災等により文化財保護や復元への興味関心が高まっている。

・新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、展覧会の開催にあたっては県イベント等実施ガイドラインを遵守するなど感染防止対策に万全を期す。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・模造復元資料を活用した展覧会の開催や調査研究及び復元過程で得られた知見を広く発信するため研究機関や伝統工芸関係者、職人などと連携し効果的な取り組みを行う必要がある。

・琉球王国文化の手わざの復元に向けて継続した調査研究を行う必要がある。

・新型コロナウイルス感染症拡大の社会情勢を受け、観覧者が安心して資料を閲覧する環境づくりに継続して取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用促進のため、模造復元資料の展覧会等や製作工程で得られた知見等を発表する報告会等を県内外で開催することに加え、ウェブ配信や広報メディアを活用した効果的な発信を行う。

・琉球王国文化を体系的に理解し効果的に発信するため、県内外に散在する文化財を継続して調査する。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 現地調査の実施 | | | | R3年度 | | | R3年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|-----------------|-------|------|------|--------|--|-------------|---------------------|------|---|
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | 0 | 0 | 2 | 0.0% | 0 | 大幅遅れ | 新型コロナウイルス感染拡大のため、現地調査は断念せざるを得なかったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況や海外渡航の可否、調査予定のアメリカの博物館等の調査受け入れ状況等について、実施に向けた情報収集に努めた。 |
| 活動指標名 | 現地調査の実施のための情報収集 | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 |
| | — | — | — | — | 実施 | 実施 | 100.0% | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、現地調査は断念せざるを得なかったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況や海外渡航の可否、調査予定のアメリカの博物館等の調査受け入れ状況等について、実施に向けた情報収集に努めたことから、大幅遅れとして判定する。 |
| 活動指標名 | | | | | R3年度 | | | | | |
| 実績値 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 | 実績値(A) | 目標値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2) これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和3年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航に係る情報収集の把握に努める。また、調査予定の博物館等との連絡調整を継続し、調査体制の構築に万全を期す。 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大のため、現地調査を実施できなかったが、新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航に係る情報収集の把握に努めた。また、調査予定の博物館等の連絡調整を継続し、調査体制の構築に万全を期した。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 特になし

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大のため、海外渡航ができなかった。また、アメリカでも新型コロナウイルスの感染拡大のため、現地調査を予定していた博物館等の休館や活動制限を受け、調査の受け入れが不可となった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 令和2・3年度ともに、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて海外調査が実施できなかった。コロナ禍が収束しない現状を鑑み、在外の琉球王国関係文化財の調査及び発信について、海外渡航による現地調査以外の手段を検討する必要がある。
- ・ 新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航の可否や調査予定の博物館等の調査受け入れ状況について、情報収集や連絡体制を継続する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ コロナ禍を鑑み、令和4年度は流出文化財の調査研究に関するパネル展を1回以上開催し、在外の琉球王国関係文化財の価値をアピールする。
- ・ また、引き続き新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航に係る情報収集の把握に努める。あわせて、調査予定の博物館等との連絡体制を維持し、調査体制の構築に万全を期す。